

統計データでみる島根県の 最近の社会経済

島根県政策企画局統計調査課統計利用推進室 課長補佐 森 永壽

【島根県の経済動向】 令和6年5月分

総合判断：島根県の経済は、一部に弱い動きがみられるものの、持ち直しの動きが続いている。

生産活動：持ち直しの動きに足踏みがみられる。

雇用情勢：一部に弱い動きながら改善の動きが続いている。

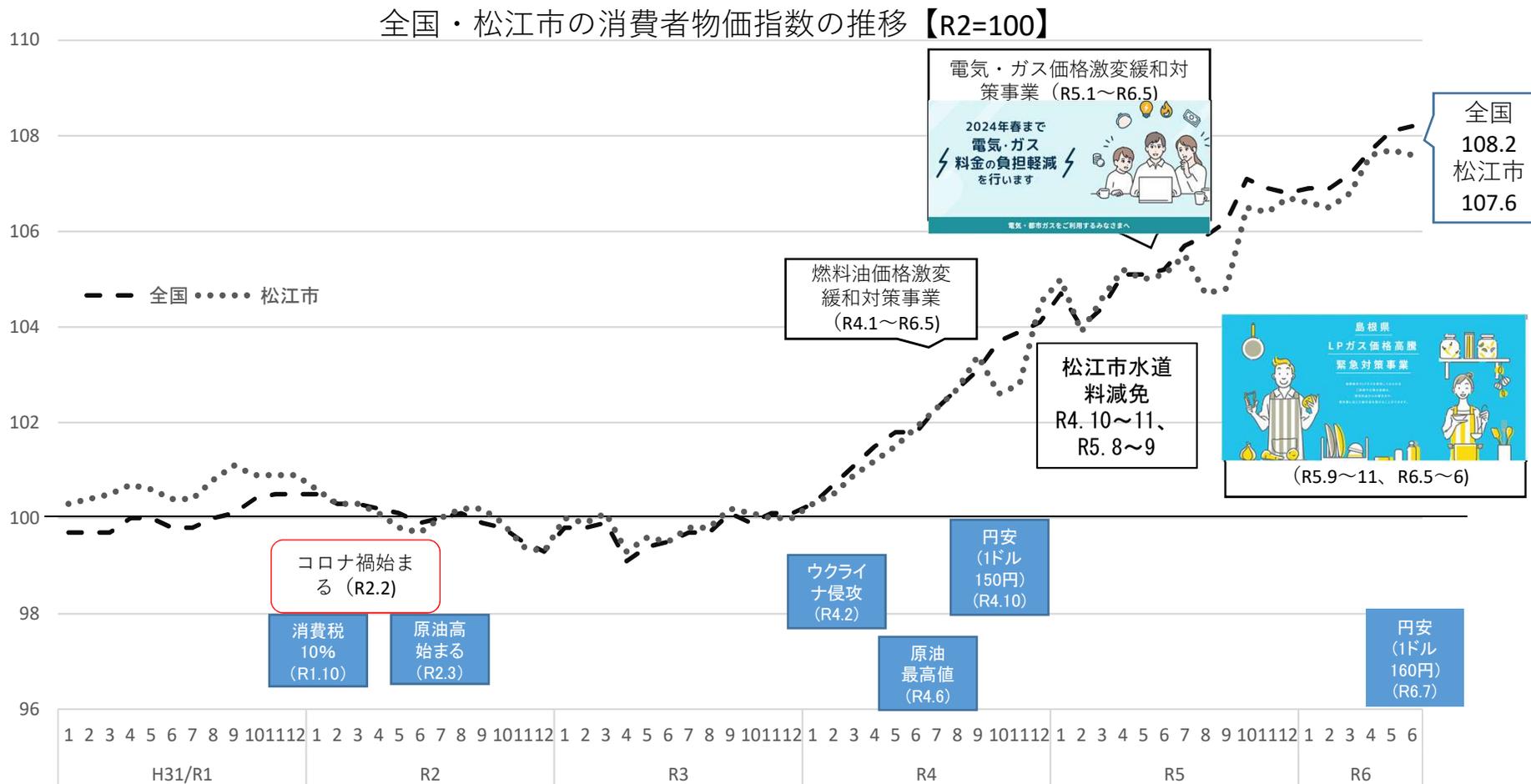
個人消費：持ち直しの動きに足踏みがみられる。

投資動向：一部に弱い動きながら持ち直しの動きがみられる。

(<https://pref.shimane-toukei.jp/>)

「島根県の経済動向」の参考となる「物価」「賃金」に着目

1-1 消費者物価指数

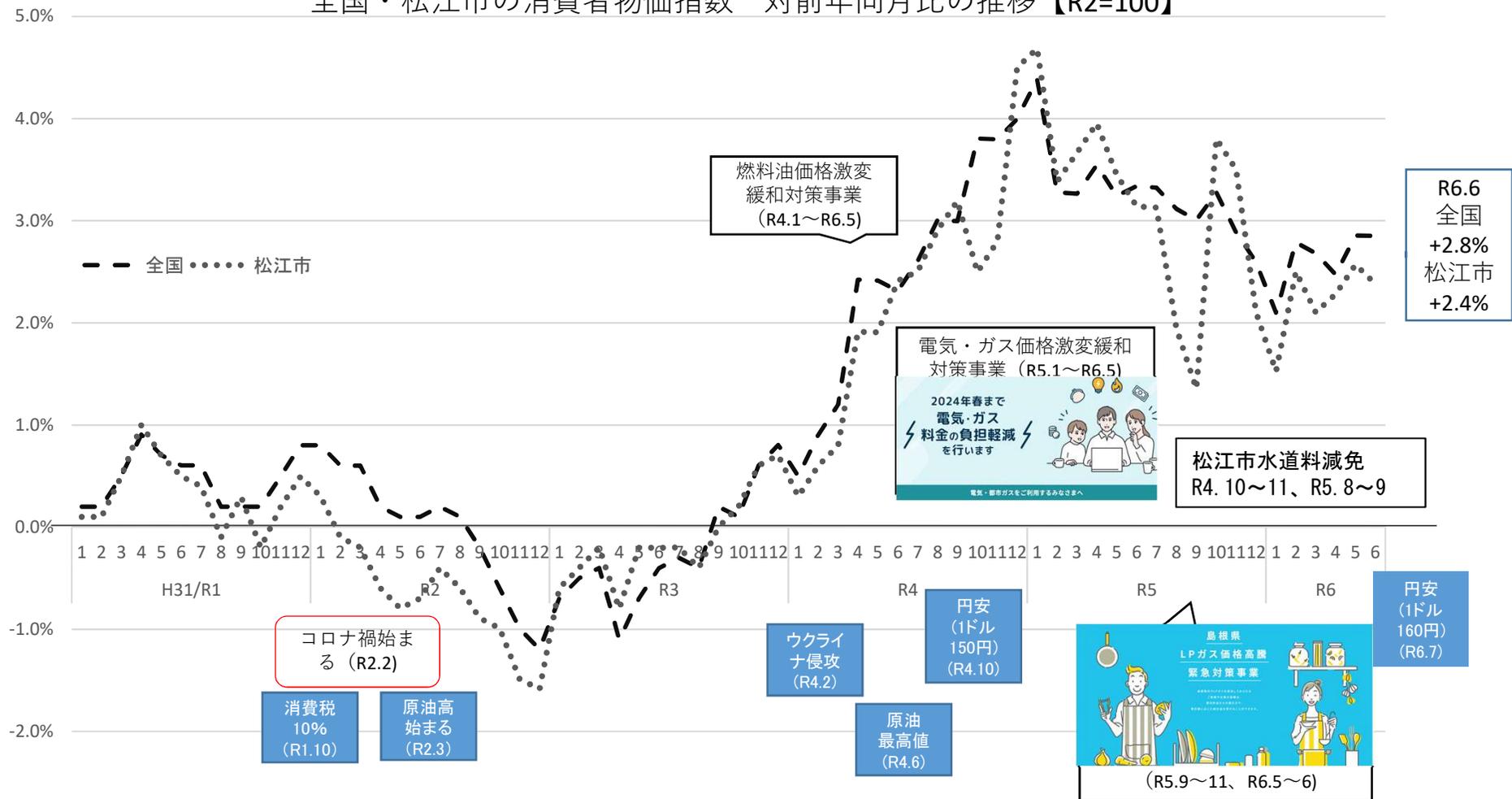


- 消費者物価指数はR4.1から上昇
R3からエネルギー価格や木材・木製品、石油・石炭製品、鉄鋼、非鉄金属などの卸値(企業物価)が上昇していたが、消費者物価には反映されていなかった。
- R4から消費者物価に転嫁され始めたものの、企業物価も上がり続け、消費者物価の上昇圧力が高いままとなっている。

データ出典：消費者物価指数（総務省）

1-2 消費者物価指数

全国・松江市の消費者物価指数 対前年同月比の推移【R2=100】

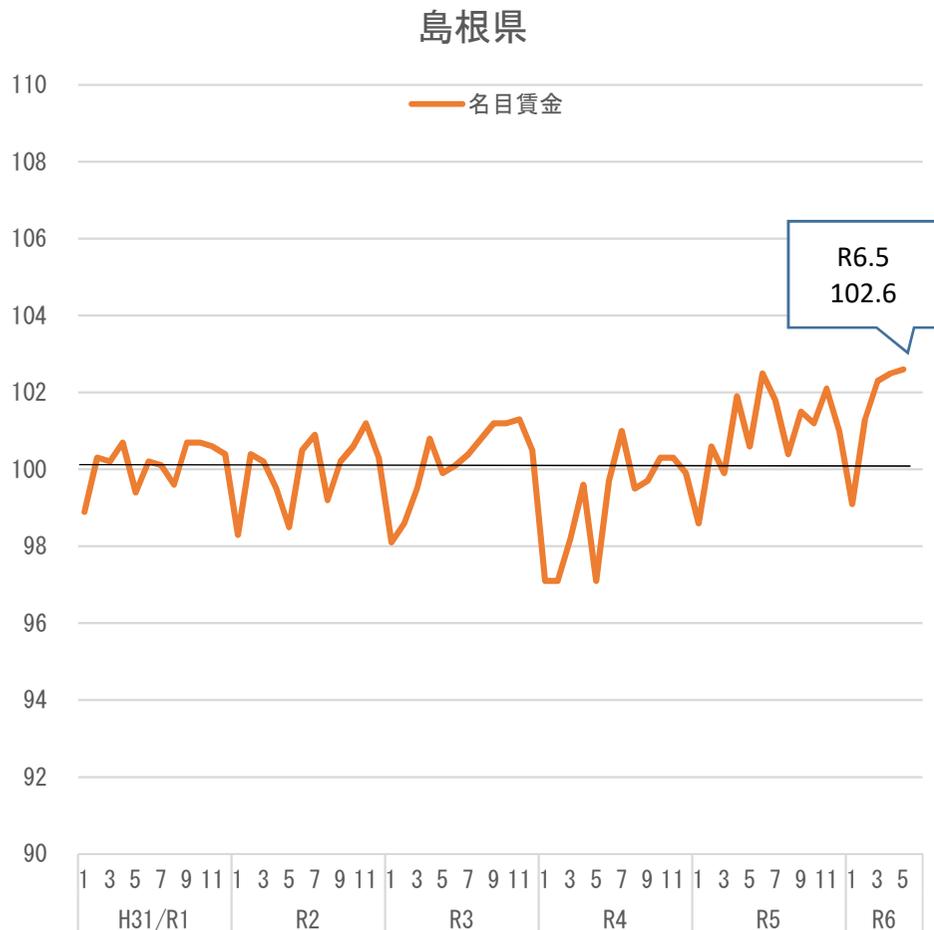


- 消費者物価指数はR4.1から上昇
R3からエネルギー価格や木材・木製品、石油・石炭製品、鉄鋼、非鉄金属などの卸値(企業物価)が上昇していたが、消費者物価には反映されていなかった。
- R4から消費者物価に転嫁され始めたものの、企業物価も上がり続け、消費者物価の上昇圧力が高いままとなっている。

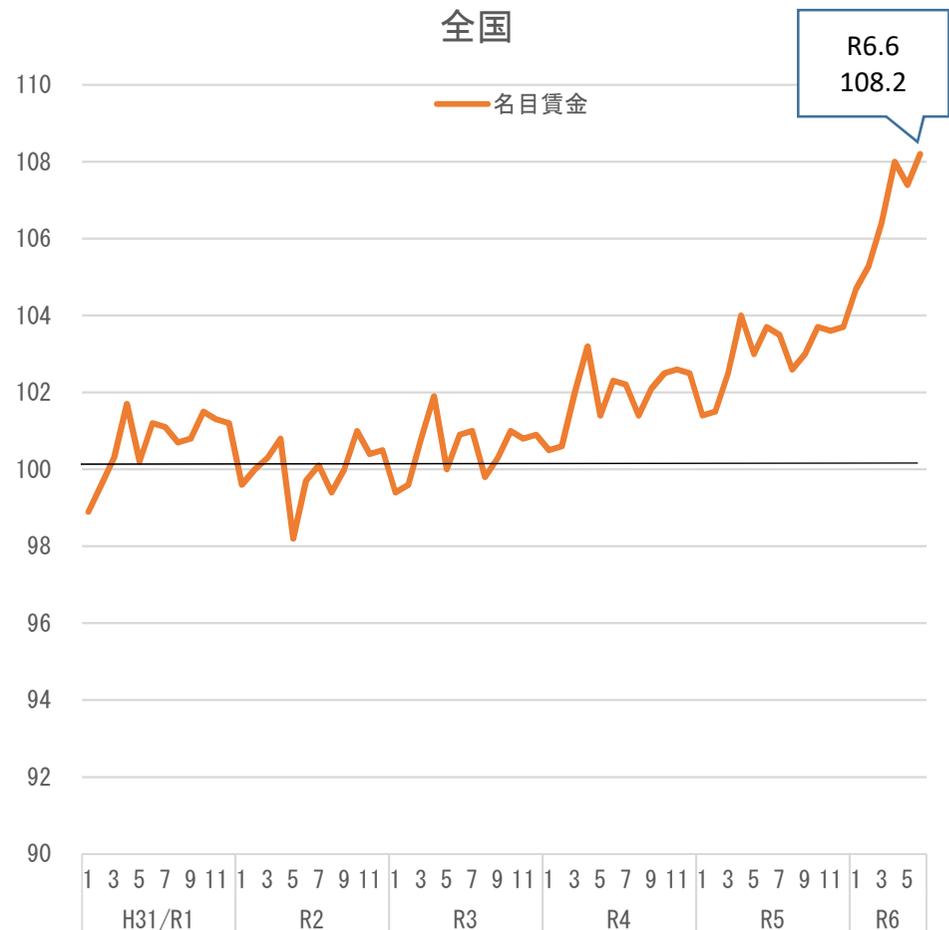
データ出典：消費者物価指数（総務省）

2-1 毎月勤労統計「きまって支給する給与」指数

「きまって支給する給与」指数の推移（調査産業計、5人以上の事業所）【R2=100】



（データ出典：統計調査課）

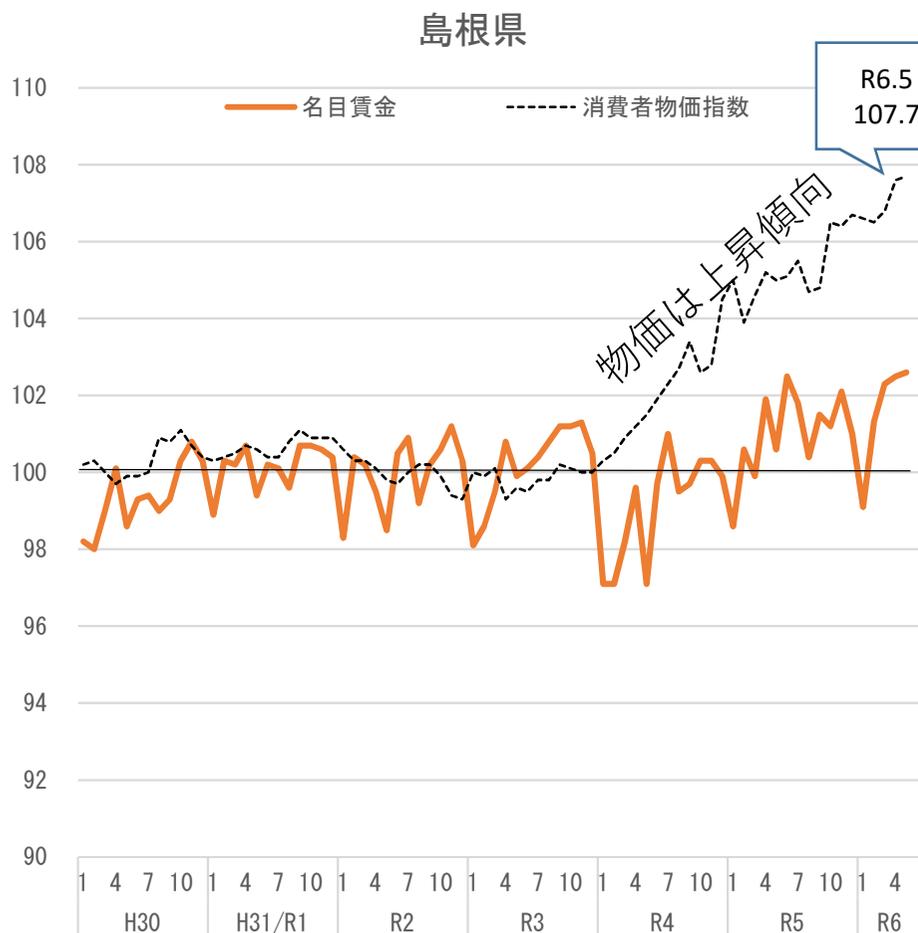


（データ出典：厚生労働省）

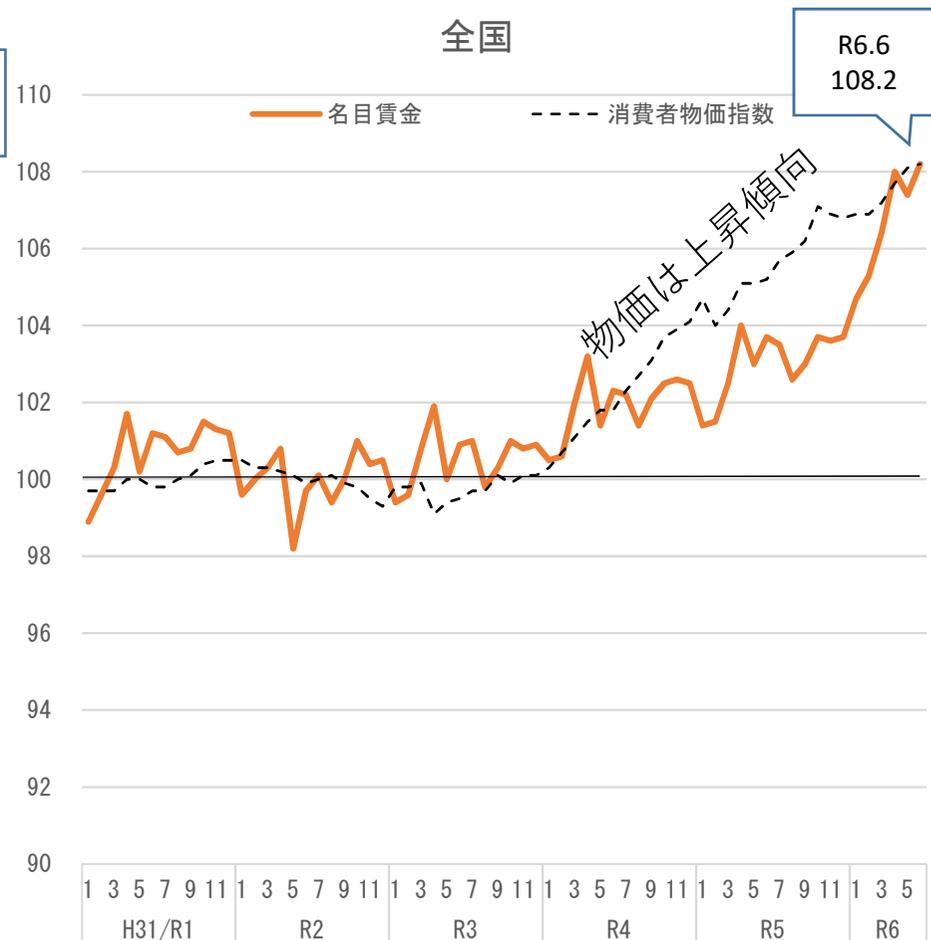
- 名目賃金は、島根県はR5以降、上下を繰り返しながら上昇傾向となっているが、全国はR3以降上昇傾向であり、特にR5後半からは高い伸びとなっている

2-2 「きまって支給する給与」と「消費者物価指数」

「きまって支給する給与」指数（調査産業計、5人以上の事業所）と「消費者物価指数」の推移【R2=100】



(データ出典：統計調査課)

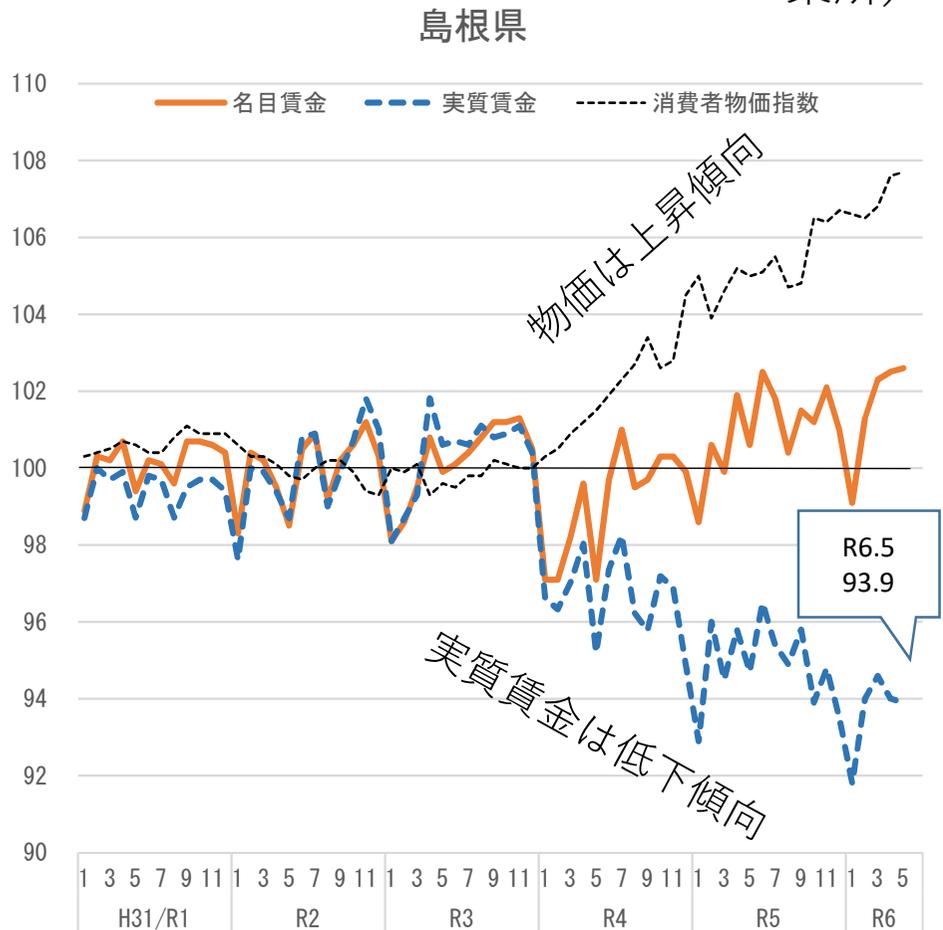


(データ出典：厚生労働省)

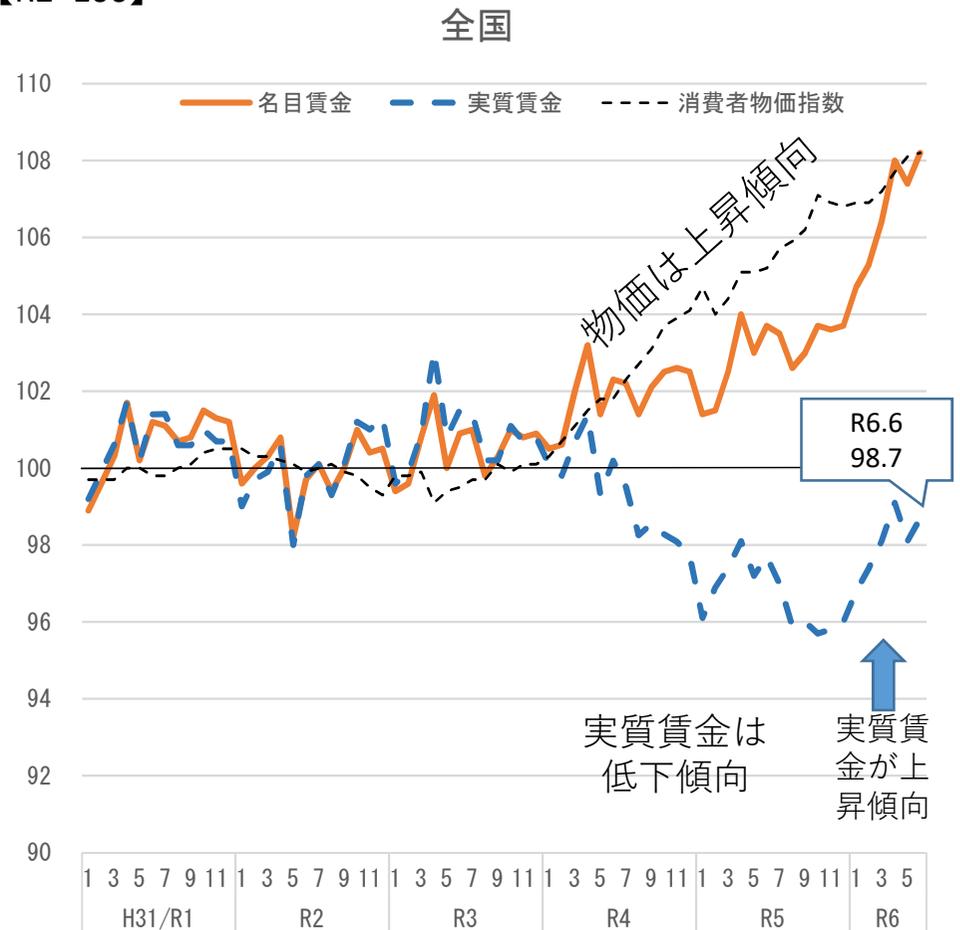
- 物価にあわせて賃金も上昇するのが理想だが、まだ賃金の上昇は追いついていない

2-3 毎月勤労統計「きまって支給する給与」指数(実質賃金)

「きまって支給する給与」指数(実質賃金)の推移(調査産業計、5人以上の事業所)【R2=100】



(データ出典：統計調査課)

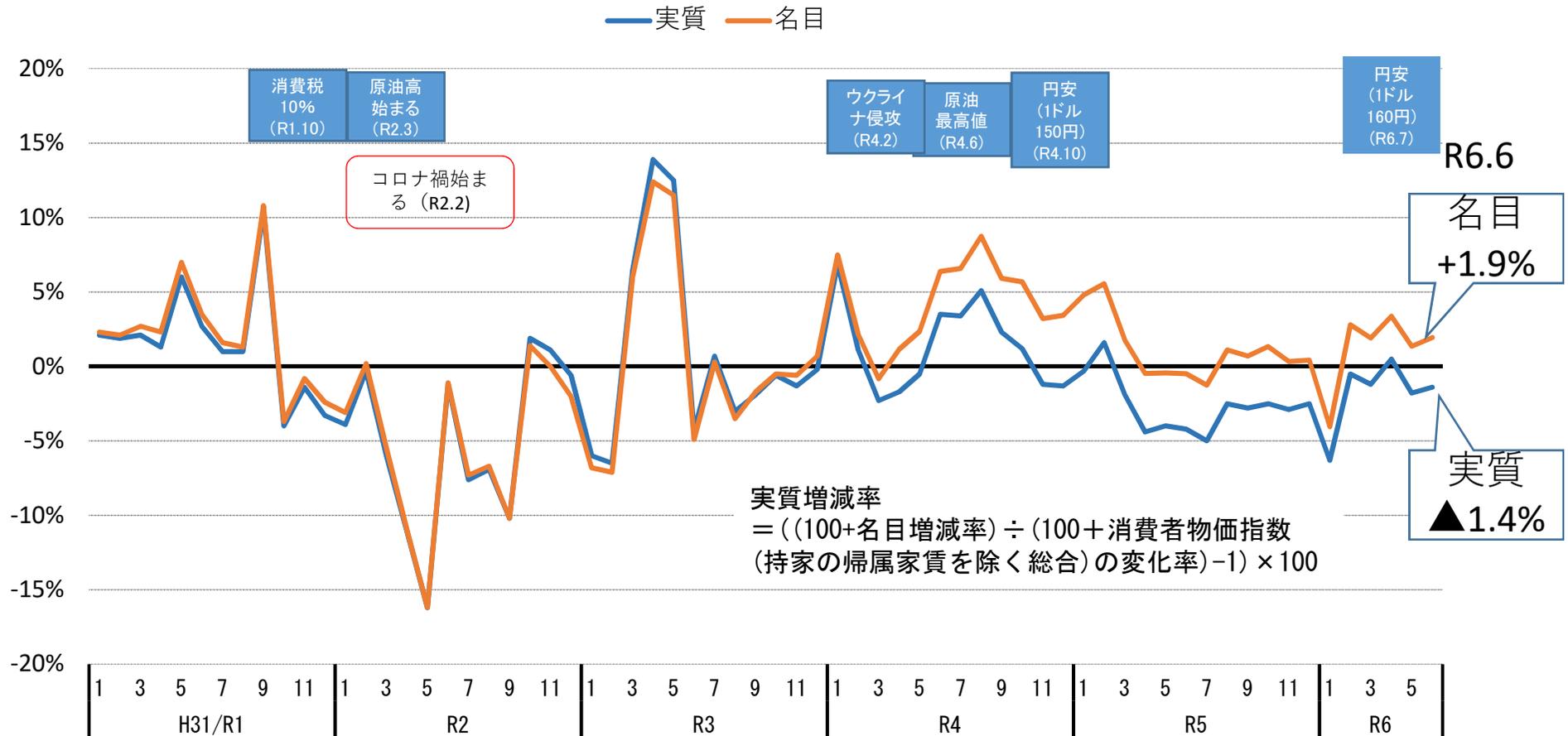


(データ出典：厚生労働省)

- 物価にあわせて賃金も上昇するのが理想だが、実際には、賃金の上昇は追いついておらず、逆に乖離幅が広がっている
- 物価の上昇を考慮した「実質賃金」を見ると、全国の実質賃金はR6.1以降上昇傾向だが、島根県の実質賃金は低下傾向が続いている(実質賃金=(名目賃金指数÷消費者物価指数(持家の帰属家賃を除く総合))×100)

3 消費支出

消費支出（全国）（2人以上の世帯・対前年増減率）



- R6.5の実質消費額は対前年同月比▲1.4%。消費者の節約志向が続く。
- R5年全国の1世帯あたりの月間消費額は29万3997円。名目は1.1%の増加だが、物価変動(3.8%)の影響を考慮した実質は▲2.6%の減少で、3年ぶりに前年を下回った。物価高を背景に食費や教育費を抑える動きがみられた

【まとめ】 今後の統計の動きに注目を！

1. 経済全体の動き
このところ横ばいが続いている
2. 事業者から見た動き
 - ① 物価
原料高を販売額に転嫁し切れておらず、物価の上昇が続いている
⇒この傾向は今後も続く可能性
3. 生活者から見た動き
 - ① 個人消費と実質賃金
物価上昇が続く中、十分な賃金上昇がなければ、個人消費が冷え込む恐れ
⇒実質賃金がこれまでになく注目されている
 - ② 実質賃金の地域間格差
賃金の上昇幅 = 実質賃金に地域間格差が生じているのでは？
⇒地方経済の冷え込みにつながる恐れ